

黒沢・大滝不動堂の不動明王像 ～その1～

平成28年8月、「黒沢 幻の歴史探検」というイベントを行った際、大滝不動堂にあった厨子ずしの中から1躯の古びた木製の仏像が発見されました。その調査を福島県立博物館に依頼したところ、次のことが判明しました。

- ◎この仏像の構造は頭や体などその根幹をなす部分を1本の木で造る「一本造りいちぼくづく」で、像の内部をくり抜いて軽くしたり、乾燥によるひび割れを防いだりするための「内削りうち」が施されていません。これは全国的には平安時代など古い時代の技法ですが、会津地方においては鎌倉時代以降の仏像にもよく見られます。
- ◎不動明王像は一般的にがっちりとしたいかり肩に造られますが、この像はなで肩に造られ、本来の形からは変形しています。
- ◎着衣が像の前面と背面でつながらないなど独特の形状をしています。
- ◎会津地方で不動明王像が作られるのは鎌倉時代以降と考えられますが、側面のプロポーションは安定感があり整っていることから、像形からして鎌倉時代初期まで制作年代がさかのぼることはないと思われます。



この像は表面の摩滅が激しいことや、かなり地方的要素の強い独特の形であることなどから判断は難しいところではありますが、13世紀後半から14世紀の鎌倉時代後半から南北朝・室町時代初期にかけて造られたものと考えられます。

中世以降の新しい時代に会津で造られたもので、この地方における密教や修験道のあり方を考える上でも非常に大切な仏像になります。

今月の表紙

今月は、大盛況となった西会津なつかしカーショヨヨリ。イベントの最後には、「サヨナラパレード」と題し、来場者の皆さんでエントリー車両を見送りました。

(2ページに関連記事)

編集後記

先日、見頃のおとめゆりを写真に収めようと安座の群生地を訪れたところ、郡山市からいらつしやっていたご夫婦に声を掛けられました。

『おとめゆりも見事だが、花かつみがたくさん自生していて驚いた』と話すご夫婦。

この「花かつみ(別名ヒメシヤガ)」は、郡山市の市の花に制定されている紫色の花で、市内でもなかなか見られるものではないとのこと。おとめゆりよりも見頃が少し早いよううで、散ってしまったものも多かったため、『来年はもう少し早めに来ようかな』と話していました。(秦)